

# 9月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

令和6年9月のD I 値は8指標中、「売上高」「収益状況」「販売価格」「設備操業度」が上昇、「景況」「資金繰り」「雇用人数」が下降、「取引条件」は横ばいとなった。

## 2. 県内中小企業の景況の現状

今月は前月に比べて、売上高、収益状況、設備操業度は好転したが、景況、資金繰りは悪化した。住宅需要の減少、原材料費、電気料金、燃料費の高騰および最低賃金の上昇により、様々な業種において経営を圧迫しており、価格転嫁が困難であるとの報告もあった。また人手不足や従業員の高齢化対策が進まないとの声も多くあった。小売業においては、厳しい残暑の影響で販売が伸びたとの明るい報告もあれば、逆に痛手を受けたとの報告もあった。印刷業では郵便料金の値上げによる悪影響を懸念する声があった。

県内金融経済概況によると、徳島県内の需要動向は設備投資が増加しており、個人消費は物価上昇の影響を受けつつも底堅く推移している。住宅投資は弱めの動きとなっており、公共投資は持ち直している状況である。

内閣府経済報告では、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復しているとのこと。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景況の下振れが景況を下押しするリスクとなっている。また物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響にも十分注意する必要がある。

### 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

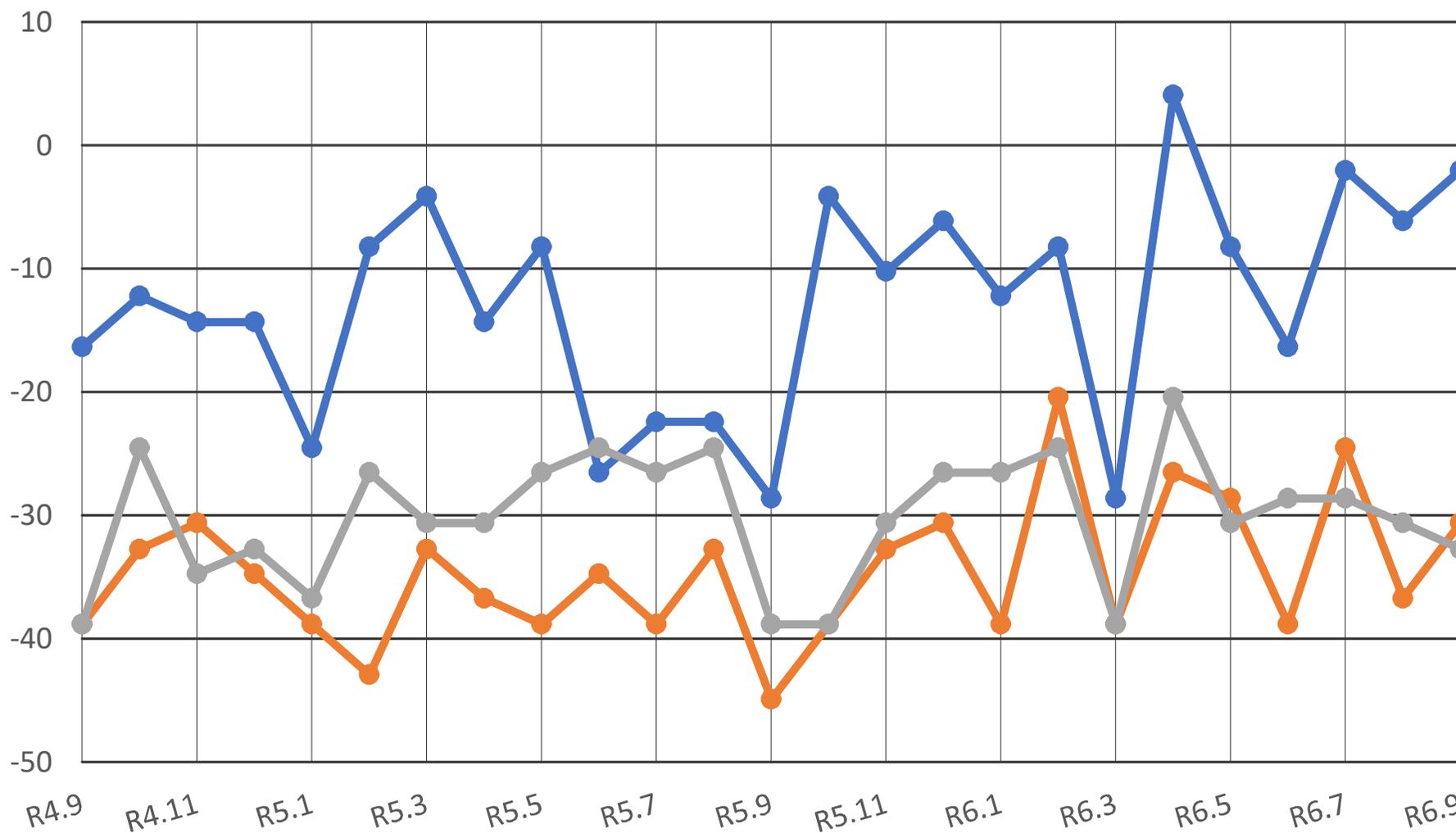
	R5 9月	10月	11月	12月	R6 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比 増減
景況	-38.8	-38.8	-30.6	-26.5	-26.5	-24.5	-38.8	-20.4	-30.6	-28.6	-28.6	-30.6	-32.7	-2.1
売上高	-28.6	-4.1	-10.2	-6.1	-12.2	-8.2	-28.6	4.1	-8.2	-16.3	-2.0	-6.1	-2.0	4.1
収益状況	-44.9	-38.8	-32.7	-30.6	-38.8	-20.4	-38.8	-26.5	-28.6	-38.8	-24.5	-36.7	-30.6	6.1
販売価格	32.7	42.9	38.8	34.7	36.7	26.5	30.6	30.6	28.6	32.7	30.6	30.6	34.7	4.1
取引条件	-8.2	-10.2	-14.3	-12.2	-10.2	-14.3	-12.2	-10.2	-12.2	-12.2	-12.2	-10.2	-10.2	0.0
資金繰り	-30.6	-28.6	-20.4	-22.4	-26.5	-16.3	-26.5	-16.3	-20.4	-18.4	-12.2	-20.4	-22.4	-2.0
設備操業度	0.0	-2.0	-2.0	-2.0	-8.2	-4.1	-8.2	-10.2	-6.1	-6.1	-6.1	-12.2	-8.2	4.0
雇用人員	0.0	-4.1	-4.1	-2.0	0.0	0.0	-4.1	2.0	8.2	2.0	2.0	2.0	-4.1	-6.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

徳島県中小企業団体中央会

# 前年同月比D I の推移

売上高 収益状況 景況



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・前年同月比でみその生産量は99.0%、出荷量は99.1%。前月比ではみその生産量は99.0%、出荷量は99.0%となり、昨年度に比べて生産量・出荷量ともに微減であるがほぼ同水準で推移している。主食用米の小売価格高騰の影響もあり、原料米の調達価格は高止まりの状況が続いており、今後の動向には留意が必要。また、原料加工委託業務の見直しや運送費用の値上げ要請の影響もあり、製造コストの上昇は厳しい見通しが続く。
2. 漬 物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。漬物業者では年末の需要に向けて生産が活発になりつつある。

#### <繊維・同製品>

3. 縫 製・来期の売上となる在庫積みの時期を迎えている。生産効率の問題があり、比較的長い期間での在庫づくりとなるため、人材には効率を求めている。価格転嫁については、転嫁しづらい商品群の範疇であるうえ、長年の顧客の理解を得るのは難しい。新規取引先や自社ブランドで、価格転嫁を実施していくしかない。

#### <木材・木製品>

4. 製 材・住宅需要の減少に伴い、各製材工場の稼働について低調となっている。
5. 製 材・8月の持ち家着工は33ヶ月連続の前年同月割れという状況の中、特に国産材価格は一段と下げ気味となっている。特にスギ・ヒノキの柱・土台が弱い。例年だと秋需の時期だが世界情勢や経済が先行き不安のなか、当用買いが多くなっているようだ。今夏の猛暑の影響で山の生産力は落ち、不足気味だが、丸太の値段は上がらない。こうした中、県内大手ツーバイフォーが稼働予定であり、需要の期待が高まっている。県内及び近隣県でも5m採材が多くなってきた。
6. 木 材・9月は、昨年と比べ建築用木材の流通量が伸びておらず、金額的にやや一段落したものの、いざ新築を建てる計画で見積もりをとったら、その高額さに驚いたという施主の方のご意見を頂いた。

#### <印 刷>

7. 印 刷・9月は例年売上の低い月である。官公庁関係では、昨年より安い単価で落札されている物件や予算削減による仕様の変更による大きな売上減少が顕著に見て取れる。更に郵便料金の改訂に伴い印刷物全体の仕事量の低下も懸念される。10月～11月に開催される秋のイベント関係で巻き返しをしていかなければならない。

8. 印 刷・コロナ前の業界では、9月は比較的売上高・収益状況とも好調な月であったが、紙離れ、ペーパーレス化の波を止めることはできず低調な月であった。仕事が減少している中、お客様の困り事を対話の中で引き出し、お客様と共に問題解決できるよう、社内体制を整えているが、結果が過ぎ出るわけでもなく根気強くやっていくしかないようだ。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・9月の出荷量は昨年同月と比べて約2%減少。上半期大きな工事の発注も少ない中、あまり出荷が上向きになったとは言えないが、これまでの出荷量と比べれば少しはましと言えるかもしれないが基本的に前年度と比べて出荷量が大きく減少している状況である。

10. 生 コ ン・9月の出荷数量は、対前年同月比10%の増であった。要因としては既契約分での民間及び公共工事（四国横断自動車道工事等）が予定通り進んだことによる。工場での収益については、価格引き上げにも関わらず、年間を通じて大幅な出荷数量の減少という結果により、経営環境は依然として厳しい。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感は、やや持ち直しの傾向を示しており、現況においても設備操業度が上向きに改善している。ただし、人材不足による需要の取りこぼしが懸念されるなか、人件費の上昇が収益をも圧迫している。今後も必要な人材・技術者などの確保が課題であり、引き続き景気動向にも注視したい。

12. ス テ ン レ ス・国内外ともに設備投資も含めた企業活動については、大きな動きは少ないものの改善の兆しは感じられる。原材料等の仕入れ価格については高止まりが継続しており、今後も為替の影響や諸経費のUP等の影響が懸念される。全体的としては、引き続き海外情勢の影響が懸念材料としてあり、まだまだ先行きは不透明である。

<一般機器>

13. 機 械 金 属・一部には景況感の持ち直しの動きも見られるものの、引き続き、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、様々な経済状況の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、需要面の回復や生産性向上、従業員の確保などが、依然として、経営上抱える課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

14. 食糧 卸・家庭用精米はほぼ行き渡り、量販店の売り場はすっかり平時を取り戻しているが、値段は高くなっている。国の試算によると昨年当初の生産数量と仮定すると、来年6月末の民間在庫数量は今年とほぼ同数とのこと。よほどの豊作か、高値による米消費減とならない限り、米の需給環境は大きく変わらない。来年は万博が開催されるため、米価の高止まりはしばらく続きそうだ。

### <小売業>

15. ショッピングセンター・昨年より休日が1日多いので売り上げは104.3%とまずまずの数字でした。業種を問わず全般に好調な月でした。全国展開している大手チェーンストアは特に好調に推移しています。
16. ショッピングセンター・組合員の半数の店は昨年よりも売上げが伸びているが、客数はリニューアル工事中ということもあり、昨年を上回る店は1店舗だけとなった。
17. 電気機器・9月は残暑もあり、引き続きエアコンの販売は順調だった。その他の商品は買い換え需要が中心となり昨年と同様の状況だった。10月以降は全体的な物価が上昇する環境の中、購買力の低下が懸念させる。
18. 畳 ・猛暑が和らいだ9月20日頃から注文や問い合わせが増えてきた。長い夏休みだった。材料価格の高騰により価格転嫁が大変である。
19. 自転車・人手不足の話が増えてきた。

### <商店街>

20. 徳島市・残暑が厳しく秋物の動きが鈍い。給料（時給）ベースアップにより資金繰りも更に厳しい状況になっている。
21. 徳島市・台風の影響で休んだ店舗が数多くあったが、売上高に関しては前年と変わらなかった。
22. 鳴門市・9月は特に変化はなかった。イス1グランプリアンドナイトマルシェ、京都大学との街づくりワークショップ、100円商店街の実行委員会が忙しくなってきた。

### <サービス業>

23. 自動車整備業・9月度の自動車販売台数は、登録車は新車・中古車ともに前年度を上回ったが、軽自動車は双方ともに前年度を下回った。内訳としては、軽自動車の新車登録台数は対前年度比1.8%減、中古車登録台数は12.7%減となった。徳島県でみると、新車販売において軽自動車は合間でプラスを示したものの、登録車は今年度に入り連続でマイナスを記録していたが、9月に入り微増だがプラスに回復した。全国的に見ても9月度の新車販売台数は微増ながらもプラスに回復したようだ。メーカーの不正認証問題の影響が緩和し、受注残があった人気車の納期遅れも改善しつつあることが要因だろう。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、データがまだ出ておらず現時点では不明です。

24. 土木建築業・前年同月と比べて、設計人数はほぼ同じであった。人員増加(企業努力)による設備追加により電子機器の在庫数量は増加した。施設投資については、PC本体の更新を官側の動向を見ながら随時更新する。設備操業度については、持ち帰り業務のため、徳島・池田に担当技術員の事務所を確保し、維持管理費は増加した。雇用人員については不変であるが、道路・砂防の担当技術員の確保、有資格者の求人応募が少なく人員確保が難しくなっている。技術員平均年齢が毎年高進している反面、河川巡視員の無資格技術員の応募が増えているが、やはり有資格者はほとんど応募がない。数年後、資格が必要となるため、社費にて資格修得実施している。

25. ビル管理・前年同期と比べ大きな変化はありません。徳島県における最低賃金が令和6年11月から980円(昨年度比84円増)となり、労働集約型産業であるビルメンテナンス業界における安定した経営に大きく影響を与えることが予想されるため、価格転嫁交渉を積極的に進めるとともにコストの削減に努めているところです。宿泊業に関しては、8月のお盆以降、稼働率が低迷しているところですが、秋の行楽シーズンに向けた観光客の増加を期待するとともに、その対応への準備を進めています。

26. 旅行業・旅行業は、例年9月は閑散期ですが、今年はシルバーウィーク等の連休を中心に例年にくらべ、旅行需要が多かった。その一方、バスの法改正、人手不足等もあり、バスの需要に対しての供給が追いつかず、お客様のご希望日の旅行手配が出来なくなっています。

#### <建設業>

27. 鉄骨・鉄筋工事業・見積り、仕事量、特に県内案件は少ない状態が続いている。材料価格は少し下がったようだが副資材が値上げ。図面承認の遅れが仕事に支障をきたしているので注意。ゼネコンの言い値にならないよう適正価格での受注を心がけたい。土木、設備、橋梁関係が主になっているところもある。

28. 建設業・公共工事は前年同月と比較して国が発注件数、請負金額とも減少している。国、市町村発注工事では、件数は減少しているが、請負金額は増加している。資材の高騰、人件費の上昇を考えると、全体の工事費が増加していないため、1工事あたりの工事費が上昇し、件数は減少している。

29. 板金工事業・工事件数の減少傾向が続いている。資材の値上げ情報もはいつている。

30. 電気工事業・徳島県の令和6年9月分の戸建住宅新築件数は119件(前年比63.6%)であった。

#### <運輸業>

31. 貨物運送業・8月はお盆休みがあった関係で荷動きは少なかったが、9月は猛暑も続いたが荷動きは例年並みとなった。一方軽油単価は、7・8月と値下がりしたが9月は小幅ながら値上がりとなった。

32. 貨物運送業・物価高を常に意識している現状で、特に燃料代がもう下がらないだろうとの諦めから不安が広がっている。価格転嫁は急務である。

33. 貨物運送業・猛暑の影響で青果物は例年に比べ減少ぎみ。人手不足は厳しく、高齢化も目立つ。各社対策に頭を抱えるが、なかなか進まない。